

組織目標評価報告書（令和 2 年度）

2

部局名： 教育学部・教育学研究科

部局長名： 三村 由香里

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員就職率の主な低下要因である入試、教育実習の充実を図るため、以下のような取組を行う。教育実習については、カリキュラムの見直しの中で、実習時期や学部と附属学校園の指導役割分担・評価指標を明確にするなど、実習前後の指導を充実させることで教員養成機能の強化を図る。また、入試については、これまでの分析をもとに多様な選抜方法を取り入れた入試改革を行う。 ・Society 5.0、GIGAスクールに対応できる教員養成に附属学校園、教育委員会と連携して取り組む。 ・学力の3要素を考慮した入試改革を行うため、一般選抜にペーパーインタビュー(国立六大学連携事業)を養護教諭養成課程に先行導入することを目指し、学内トライアルを行い課題や改善などを検討する。 ・教員就職状況や今後の教員需要の減少予測を踏まえ、学部定員減の具体案を示す。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職学位課程において、特別支援学校教諭専修免許状の課程認定(令和4年度)を受けるなど、入学者のニーズに合わせた教育内容の充実を図り、定員充足を目指す。 ・(独)教職員支援機構との連携により、ラーニングポイント制を充実させ、現職教員が学びやすい体制を整備するための研修や岡山大学としての特色を示すことができる研修の開発を行う。 ・社会文化科学研究科(博士後期課程)に教育学研究科として国際教育科学講座(ESD・SDGs論およびGCED論)の、令和3年度設置を目指すとともに、将来の学位プログラム構築のための準備体制を整える。 	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員養成の質保証、教員就職率の向上を目指し、教育実習、入試、自己評価など6つのWGを立ち上げ、カリキュラムの抜本的な改革に向けて方向性を確認し、令和3年度早期の決定を目指し検討している。 ・GIGAスクールに対応するため、国での新規科目導入(令和4年度)に先駆け、岡山県・岡山市教育委員会と連携し、令和2年度に卒業する学生を対象に、オンラインと対面での研修を実施している。また、在校生に対して教育実習や教職実践演習の中での導入を検討している。 ・養護教諭養成課程に令和3年度実施入試からペーパーインタビューを加えることを2年前程度予告し、面接との違いなどを踏まえた効果的な設問を行うための学内トライアル(学生対象の模擬実施と振り返り)を実施した。 ・適正な学部定員について検討し、令和3年度早期の決定を目指している。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職学位課程において特別支援学校教諭専修免許状の課程認定と同時に特別支援教育特別専攻科の廃止を計画しており、令和5年度に開始できるように令和3年度に文科省との事前相談を行う準備を進めている。学生定員確保については、引き続き課題として取り組みたいと考えている。 ・(独)教職員支援機構との連携により、岡山大学としての特色を示す研修(健康教育指導者養成、事務職員研修)を開催し、ラーニングポイント制の実質化と次年度以降に向けて、中四国のみならず全国の拠点となる分野を示すことができた。この体制を学びやすいカリキュラムに繋げて行くことが課題である。 ・社会文化科学研究科(博士後期課程)に教育学研究科教員による国際教育科学講座(ESD・SDGs論およびGCED論)を令和3年度に開設し、初年度9名の入学者を迎えることができた。 	
②研究領域		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【学部・研究科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD/SDGsの教師教育を推進するため、海外協定校の研究者との共同研究を進めると同時に学内での学際・融合領域における新しい研究プロジェクトについても検討していく(社会文化科学研究科の講座設置とも関連)。 ・科研費、外部資金の獲得を目指し、教員個人の研究のみならず、研究科としての研究プロジェクトを立ち上げ、支援する体制を整える。 ・教員個人の専門分野の研究に加え、教員養成機能強化につながる教育実践に関する研究を推進する。 ・「教育実践データサイエンスセンター」において、マイクロステップスケジューリング法による社会実装を踏まえた研究開発を推進する。また、EIPPE(Evidence-Informed Practice and Policy making in Education)プロジェクトにおいては、教員養成における評価や岡山県との連携事業による研究を外部人材との連携により進める。 	<p>【学部・研究科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD/SDGsの教師教育推進のための海外との協働について、COVID-19の影響で直接の行き来はできなかったが、オンラインでのセミナーを行い、それを契機にエジプト アインシャムス大学との協定締結に繋がった。この提携を機に、地域(公民館等)を巻き込んだ共同研究を推進して行く予定である。また、JSPS研究拠点形成事業(A.先端拠点形成型)の採択により、次年度以降の共同研究推進に向けての基盤を作ることができた。 ・「教育実践データサイエンスセンター」において、マイクロステップスケジューリング法による社会実装を拡大し、3月3日、その成果を学内外に報告するフォーラムを開催した。また、EIPPE(Evidence-Informed Practice and Policy making in Education)プロジェクトにおいては、岡山県からの委託事業により、学校現場の課題に対する施策の評価を外部人材(アドバイザー)との連携により実施し、文科省「教育政策の特性を踏まえた根拠に基づく政策形成のあり方についての研究業務」のミーティングにおいて、成果等を報告した。 	
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【学部・研究科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師教育開発センターと連携し、県北美作圏内の小中学校を対象とした「授業力パワーアップセミナー」の継続実施により、現職教員の研修に貢献する。 ・学部「県北地域教育プログラム」専修生を中心に、地域での学びや活動の中で生まれる地域活性化の効果を津山スクールとの共同で検証する。 ・学部「県北地域教育プログラム」、教職大学院を通して、県北地域の教育委員会と連携し、小・中・高校生の学びや活動を支援することを通して、教育人材の育成に貢献する。 ・(独)教職員支援機構岡山大学センターとESD共同推進室(ESD.SDGs教育研究センターへの改組を目指す)の協働で、ESD/SDGs教育を推進する教員(国内外対象)に対しての研修を開催する。 ・「教育実践データサイエンスセンター」EIPPE(Evidence-Informed Practice and Policy making in Education)プロジェクトにおいて、岡山県の教育施策に対する評価を行うことで、EBPMIに貢献する。 <p>【附属学校園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の諸課題の解決に寄与する教育研究を進め、体験型研修を通してその知見を地域へ示す。そのためティーチャーズ・ルームを特別支援学校に先行して整備し、研修プログラムを構築し、ラーニングポイント制対象研修として位置付ける。 	<p>【学部・研究科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師教育開発センターとの連携により、(独)教職員支援機構の外部資金を獲得し、県北美作圏内の小中学校を対象とした「授業力パワーアップセミナー」を開催し、若手教員の授業力向上と校内研修充実のための支援を行なった。報告会を開催し、成果と課題をステークホルダー間で共有するとともに、(独)教職員支援機構つくば中央研修センター長より講評いただいた。成果と課題を踏まえ、次年度の向けての準備を岡山県教育委員会(津山教育事務所)と進めている。 ・「教育実践データサイエンスセンター」EIPPE(Evidence-Informed Practice and Policy making in Education)プロジェクトにおいて、岡山県からの委託事業を受け、教育施策評価を行うと同時に、課題解決に向けての提案を行っており、学校現場への貢献に繋がっている。 <p>【附属学校園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の諸課題の解決に寄与する教育研究を進め、体験型研修を通してその知見を地域へ示すためティーチャーズ・ルームを特別支援学校に整備した。この体験型研修を岡山県・岡山市教育委員会との連携事業に位置付け、特別支援学校での先行実施に加え、小中学校においても試行的に行なった。 	
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職実践専攻、教育科学専攻それぞれにおける運営組織を強化し、それぞれの特徴を明確に示すことができる組織体制を整えるとともに、評価のためのヒアリングを行い課題を明らかにする。 ・「教育実践データサイエンスセンター」の実質化を図り、また「ESD.SDGs教育研究センター(仮称)」の設置に向けての準備体制を整える。 <p>【附属学校園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「附属学校園運営会議」を設置し、学部のガバナンスを強化するとともに、学部と附属学校園の連携を密にして、教育実習、教育実践研究、地域のモデルなど附属学校園の役割を明確化するために整えた体制を実質化する。 <p>【学部・研究科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営費交付金を戦略的に支出できる体制を整える。 ・人事において、若手・女性教員の採用を目指す。 	<p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職実践専攻、教育科学専攻それぞれに対し、研究科長・副研究科長でヒアリングを行ない、学位プログラム整備に向けた運営組織を強化すると同時に、それぞれの特徴を明確に示すための課題について検討を初めている。 ・「教育実践データサイエンスセンター」、「ESD.SDGs教育研究センター(仮称)」の体制を整えるとともに、外部資金の獲得や研究拠点として位置づけられるよう支援した。 <p>【附属学校園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「附属学校園運営会議」を設置し、学部のガバナンスを強化するとともに、学部と附属学校園の連携を密にして、教育実習、教育実践研究、地域のモデルなど附属学校園の役割を明確化するために整えた体制を整えた。 <p>【学部・研究科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度採用人事において女性を採用した(2名/2名中)。 	